

平成 25 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

街ぐるみ認知症相談センター

【設立年月日】2007 年 12 月 5 日

【授賞理由】

2007 年より開始された認知症の早期発見等の相談業務は、地域住民と専門医療機関の架け橋となり、敬遠されがちであった医療機関への受診に新たな道筋をつける先駆的な活動となった。

また、この活動は地域の専門医と福祉関係者の連携・協働をより一層に加速させる、大きな一翼ともなった。

【団体概要】

2002 年から日本医科大学老人病研究所が行っている地域高齢者のサポート活動を背景に、「2007 年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進社会連携推進事業」の助成を受け「街ぐるみ認知症相談センター」を開設。平日（月～金）9：00～16：00 の間で相談活動を実施している。なお、2012 年度より所属を老人病研究所から武蔵小杉病院に移し事業を継続している。

【事業活動】

川崎市において、認知症の人が住み慣れたまちで安心して暮らせようとするため、市民、行政、医療、介護の諸機関と認知症ケアの連携ネットワークを作ることとを使命とする。

1. 拠点である「街ぐるみ認知症相談センター」で認知症の早期発見と、かかりつけ医が主体となる認知症診療システムの構築。
2. 連携促進のための事業（市民公開講座の開催、介護と医療連携のためのカンファレンスの開催、行政や地域包括支援センターなどの会議への出席、地域の勉強会への講師派遣など）。

【業績および功績】

認知症早期発見のために、もの忘れが心配な方や家族に対し臨床心理士などが面談や検査を行い、問題解決に向け支援している。具体的には、タッチパネル式もの忘れチェックを行い、もの忘れが疑われる場合は神経心理検査と生活状況の聴取を行うと共に、かかりつけ医への情報提供書を作成し受診を促す。地域の諸機関とも情報共有し、早期発見とかかりつけ医を主体とした地域での認知症ケア連携を促している。相談は無料で、丁寧な応対を行い誰もが気軽に利用できるよう配慮している。そのかいもあり、2013 年

2月現在、相談者は4,047名（延べ数）、うち約31%（1,270名）に情報提供書を作成した。2011年に実施した転帰調査では全相談者の15%が認知症などの診断を受けたことが明らかになり、認知症の早期発見に確実に寄与している。